

平成28年度 事業計画の概要

当協会は、「観光振興事業」と「コンベンション振興事業」、「県立施設の指定管理事業」を営んでいる。

平成27年度の【観光振興自主事業】では、「大鳴門橋開通30周年事業(架橋記念館エディ開館30周年、渦の道開館15周年)」や本県の魅力をマルゴト発信し誘客に繋げる「おどる宝島！とくしま博覧会 2015」を本年6月までの9ヶ月間開催することとした。例年、協会主催の特別イベントとして実施してきた「秋の阿波おどり」は徳島県との共催による「阿波おどり大絵巻」として実施し好評を博した。

また、旅行業の開始については、その基盤整備を行うとともに、協会ならではの地域貢献型旅行企画第1弾を催行し一定の手応えを掴むことができたほか、インバウンド事業では、四国運輸局や他県観光協会、コンベンションビューロー等と連携し、中国・韓国・台湾等からの観光客やインセンティブ旅行、教育旅行などの誘致に取り組み、相応の成果をあげることができた。なお、ベルギーからの教育旅行客誘致は、一団で延べ宿泊者数2000泊を超える特筆すべき成功事例となった。

【観光振興・県からの受託事業】では、県内の宿泊施設において割引価格で使用できる「おどる宝島！とくしま旅行券発行事業」や「新時代へ挑戦！観光宿泊推進事業」を行い、旅行会社等による商品化と送客に繋げ、宿泊客確保に努めたほか、映画やテレビロケ等の誘致を行う「とくしまロケーション・ブランド発信事業」や「魅力あふれる阿波とくしま観光誘客促進事業」、体験型観光における受入態勢を構築する「体験型観光ステップアップ事業」などを実施した。

【コンベンション振興事業】では、新規に、県内の主要コンベンション施設を「インドアビューで見せるシステム」の構築やコンベンション会場から観光地へのシャトルバス運営等を行う「戦略的MICE誘致事業」を実施した。

コンベンション誘致の成果については、「協会の総力を挙げたコンベンション誘致策」や「とくしまコンベンション誘致促進協議会」加盟団体等の支援と協力等が功を奏し、昨年度を上回る成果をあげたほか、本年度は更に増加する見込みとなっている。

【指定管理事業】のアスティとくしま及びときわプラザの運営に関しては、これまで以上に「安全・安心・快適な施設運営」と「利用者サービスの向上」に加え、様々な「利用促進策」に努めた。この結果、多目的ホール等の稼働率や施設の利用料収入は、コンベンションの誘致成果と同様に右肩上がりの傾向となっている。

また、おどる宝島！とくしま博覧会特別イベントの「秋の阿波おどり」や「徳島県ゆかりの映画を見る会」、クラシックコンサート招致第2弾「佐渡裕指揮第九特別コンサート」などはいずれも大盛況であった。

なお、平成27年度末で指定管理期間が満了するアスティとくしま&ときわプラザについては、応募し、平成28年度以降も引き続き運営受託することになった。

渦の道とエディについては、大鳴門橋開通30周年やエディ開館30周年、渦の道開館15周年を含めたイベント開催や旅行AGTなどに対する誘致セールスなどの利用促進策に加え、利用者サービスの向上策や経費節減策等を講じたものの、利用状況は低迷し初の赤字収支を余儀なくされており、新年度の最大課題である。

平成28年度は、「徳島県観光振興基本計画」や「地方創生“拳県一致”協議会」を核とした【VS 東京「とくしま回帰」総合戦略～戦略的な観光誘客の推進～】を基本とした観光振興諸施策を、徳島県観光部局や諸団体、観光事業者等との連携を密にしながら積極果敢に推進することとする。

加えて、今年度の国内旅行市場最大の話題は「3月の北海道新幹線開業」であり、集客効果が国内でも最大級のJRデスティネーションキャンペーン(JRDC)が、他県「晴れの国岡山DC(4～6月)、青森県・函館DC(7～9月)、長崎DC(10～12月)」で順次開催されるため、四国では従来にも増して「四国が一つになった広域観光連携による誘客対策の実施」が望まれる。

幸い、本県では、国土交通大臣認定の広域観光周遊ルート7コースのうち、「スピリチュアルな島～四国遍路～」、「美の伝説」、「せとうち・海の道」の3コースが該当しており、関係団体である四国ツーリズム創造機構のほか、本年4月発足予定の関西国際観光推進本部（仮称）や(一社)せとうち観光推進機構との連携を重視した取組を強化する必要がある。

なかでも、四国ツーリズム創造機構とは、平成29年第1四半期に開催される大型の観光キャンペーン「四国デスティネーションキャンペーン(四国DC)」に備えた対応策が重要不可欠であることから、「四国霊場八十八ヶ所めぐり(逆打ち)」をはじめ、本県の「おどる宝島！とくしま博覧会」や「徳島LEDアートフェスティバル2016」、香川県の「瀬戸内国際芸術祭2016」、高知県の「奥四万十博(4～12月)」、愛媛県の「えひめいやしの南予博2016(3～11月)」を素材とした観光客誘致を、関係する他県やその観光協会等との連携を深めつつ推進していきたい。

【観光振興の自主事業】としては、「おどる宝島！とくしま博覧会2016」など従来施策を継続展開するほか、新たに、「四国DCの開催を契機とした誘客事業」や「旅行業の本格的始動」、「とくしま観光・物産アドバイザー制度」や「阿波おどり花れん浴衣の衣装レンタル事業」等を実施する。

また、インバウンド事業では、多言語標記の促進や観光案内拠点を整備する「外国人受入態勢整備事業」を新規に行うほか、四国運輸局や他県観光協会、コンベンションビューロー等と連携した「中国・韓国・台湾等からの観光客やインセンティブ旅行、教育旅行などの誘致」に取り組む。

【観光振興・県からの受託事業】としては、新規に、四国DCの開催に向けて二次交通の整備や検証等を実施する「受入環境充実事業」や団体旅行等の需要喚起を促す「徳島旅行促進事業」を行うとともに、継続事業としては、「とくしまロケーション・ブランド発信事業」や体験型観光推進組織の徳島大会を開催する「体験型観光ステップアップ事業」などを実施する。

【コンベンション振興事業】としては、「戦略的MICE誘致事業」や「MICEおもてなし事業」を行うほか、「とくしまコンベンション誘致推進協議会」加盟団体等の支援や協力による誘致活動、国際ミーティングエキスポや中四国地区誘致懇談会等による情報発信と誘致活動に取り組む。

【指定管理事業】のアスティとくしま及びときわプラザの運営に関しては、平成28年度から以降5年間継続して受託することになった。これまで以上に「安全・安心・快適な施設運営」と「利用者サービスの向上」に努めるとともに、「多目的ホール等の稼働率向上や施設の利用料収入拡大」などの利用促進を図るため、「大会・会議や芸術・文化イベントの誘致事業」等を積極的に進めたい。

特に、今年度はコンベンション等の開催件数も盛況で、多くの来場者が見込まれるため、観光やコンベンション振興部門とも連携して、従来施策である「アスティおどり広場」や「阿波おどり練習風景の観覧」、「おどる宝島！とくしま博覧会特別イベント・秋の阿波おどり」に加え、「ふれあい広場を活用した情報発信」や「館内の彩空間演出」など「観光PR事業」を強化し、来場者の本県滞在日数や周遊ヶ所数の拡大に努めたい。

渦の道とエディについては、利用者数の低迷など厳しい経営環境にあることから、従来にない施設自体の魅力度向上策や利用者サービスの向上に努めるとともに、節目毎のイベント開催や旅行AGTなどに対する誘致セールス強化等による利用促進策を講じることとする。

以上を踏まえた平成28年度の具体的な事業計画は、次のとおりである。

観光振興事業

1 自主事業

(1) 観光宣伝・情報発信事業

① 観光情報等の発信事業 一部新規

観光情報サイト「阿波ナビ」を最大限に活用した観光情報発信については、観光団体や事業者等からの多彩な情報を一早く・幅広く収集し「旬の情報」として提供するとともに、「とくしまフォト紀行」を新設するなど、写真素材を多用したビジュアル化と付帯情報の充実化等により、効果的かつタイムリーに行うこととする。

一方、パンフレットやマップ類の送付依頼が多いことから、「観光情報プラス1作戦」による情報発信の強化・拡大に努めることとする。

② 「とくしま観光・物産アドバイザー」制度の新設 新規

県外企業の徳島在勤の方々(支社長・支店長・支局長・所長等)は、本県の観光や物産面の魅力と素晴らしさについても実体感され、その良否を客観的な視点にたった的確に評価して頂いている。

これらの声を貴重なご提言として観光・物産施策に反映するとともに、転勤後も永く徳島ファンとして宣伝・広告塔的な役割を果たして頂くため、「とくしま観光・物産アドバイザー」制度を新設する。

③ 観光情報誌「うずうず」作成事業

県内各地で開催されているイベントや季節ごとの旬の情報、当協会の観光振興やコンベンション振興事業など、新着情報をタイムリーに掲載した季刊誌を春・夏・秋冬に作成し配布する。

④ 徳島観光情報ステーション管理運営事業

淡路島南パーキングエリア内の「徳島県観光情報ステーション」で、観光パンフレットやポスター、のぼり等の設置、映像等による観光情報の発信を行う。

⑤ 全国の徳島県人会等への観光情報提供事業

全国各地に広がる県人会の人的ネットワークを活用し、観光誘客の推進や物産の販路拡大に資するため、本県の旬の情報を掲載したパンフレットやお得な情報を提供するとともに、「阿波ナビ」や「全国徳島県人会連合会のホームページ」を活用した情報発信に努め、交流人口の拡大を図る。

⑥ 観光ポスター、パンフレットの掲出による情報発信事業

本四高速（株）、西日本高速（株）、道の駅、南海電鉄グループ等と連携し、本県への観光誘致を目的とした観光ポスターやパンフレットを県外のS・A・P・A等に設置し、近隣圏からの誘客に努める。

⑦ とくしま観光情報通信員の活用事業

とくしま観光情報通信員提供の県内各地の旬の情報や隠れた観光資源・観光トピックスなどは、阿波ナビを活用してタイムリーかつスピーディーに発信しており、通信員数の拡大や交流会開催によるレベルアップ研修を行う。

(2) 観光客誘致促進事業

【国内誘客事業】

① 四国DCの開催を契機とした誘客事業 新規

JRデスティネーションキャンペーン(四国DC、目的地を特定した大型の観光キャンペーン)のプレキャンペーンと本キャンペーンは、本年秋から明年第1四半期までの間に連続開催されるため、これを契機とした観光振興施策を徹底的に推進し、誘客を図ることとする。

② 「おどる宝島！とくしま博覧会2016」の開催

四国DCは多大な誘客効果が期待されることから、「おどる宝島！とくしま博覧会2016」を核とした誘客キャンペーンを、平成28年10月から翌年6月までの間に大々的に展開することとする。

期間中の「おどる宝島！とくしま」の魅力発信については、これまで取り組んできた「豊かな自然や歴史と食文化、市町村の地域イベントや体験型観光、阿波おどり等の伝統芸能など」に加え、当協会旅行業による「阿波の匠に出会う旅など新たな着地型旅行商品」や「四国DC向け新規商品企画」、「地域イベントのリニューアル」などを織り交ぜながら展開する。

ア. 特別イベントの開催

徳島県との共催による「秋の阿波おどり」に加え、「お試し歩き遍路」を開催する。

イ. 四国DC向け新規商品企画や地域イベントのリニューアル 新規

地域イベントについては可能な限りお客様参加型の双方向交流イベントを目指すよう働きかけるほか、四国DC向け新規商品については、これまでにない新たな魅力や価値を付加したものとする。

ウ. 県内外へのPR活動等 一部新規

パンフレットやポスター等を作成し、県内外に配布・掲載するとともに、専用ホームページを作成して情報発信を行うほか、マスメディアを活用した有料広告宣伝をも検討する。

また、5月に高松市で開催されるJRDC重点宣伝販売促進会議や首都圏で開催される旅行AGT等との商談会などにも積極的に参加し、旅行商品造成と送客を依頼し、本県への誘客を図る。

③ ニューツーリズム推進事業

これまで推進してきた「フラワーツーリズム」や「グリーン・ブルーツーリズム」、「エコツーリズム」、山野草料理、阿波薬膳料理などを活かした「ヘルスツーリズム」、藍染めや手漉き和紙体験などの「インダストリーツーリズム」や「複合型ニューツーリズム」を深度化する。

④ 旅行AGT等サポート事業

旅行AGTに対する本県観光情報の切れ目のない提供に努めるほか、「歩き遍路宿泊パック」など本県固有の魅力を盛り込んだ「着地型旅行商品」を造成・提案し、旅行AGTによる商品造成や協会商品の委託販売に努める。

⑤ 四国四県観光協会連合による四国域内流動活性化事業 一部新規

四国四県観光協会連合では、四国内の旅客流動を活性化するため、大規模商業施設、ネクスコ西日本の道路情報提供ブース等での観光パンフレット設置や各県の県政記者クラブ等に対する定例的な情報発信により集客に努めるほか、観光客が感激したおもてなし事例を募集・選考し、表彰する「おもてなし感激大賞」事業を新規に実施し、「おもてなし四国」を推進する。

⑥ 観光商談会等への参加事業

四国ツーリズム創造機構やJR四国等が主催する旅行AGT等を対象とした観光商談会や、三旅連主催による旅行AGTへのPRキャラバンやJR四国旅木連、県内市町村や観光関連団体等による観光キャラバンに参加し、本県の観光PRやイベント等の情報発信に努めるとともに、旅行商品の造成を働きかける。

⑦ マスコミ活用宣伝事業

マスコミによる情報発信効果は極めて高いことから、県内の魅力あるイベントや情報発信について、タイムリーなパブリシティ提供に努めるとともに、一部有料広告等を検討する。

【訪日客誘致事業】

① 海外からのMICE誘致等促進事業

ア. 徳島国際観光・物産交流特使制度事業

徳島県の観光・物産の魅力を発信し、本県の認知度向上をはかり、外国人観光客増加に繋げることを目的に、徳島県を訪れたり、徳島県在住または在住したことがある外国籍の方や日本に帰化した方、国外在住の徳島県人や徳島ファンの日本人を「徳島国際観光・物産交流特使」として依頼し、特使の人脈を活かした徳島県のPRを実施する。

イ. 四国インバウンドフェア2016への参加

四国運輸局が主催する「四国インバウンドフェア2016」には、四国ブロック広域観光振興事業推進協議会の一員として参加するほか、中国・韓国・台湾・香港など、東アジア地域の旅行会社等を招請する商談会等の場を活用して、観光客誘致を図る。

ウ. 中国からの誘致 一部新規

四国運輸局や四国ツーリズム創造機構、四国のコンベンション推進団体等と連携し、中国や香港からの観光客や教育旅行、インセンティブ旅行の誘致を図る。新たな需要を創出するために、訪日ウエディング（フォトウエディング）の提案を行なう。

また、他団体等が主催する県内視察等においては、現地でのアテンドや案内等に同行するなど受入対策にも取り組む（韓国、台湾も同様）。

エ. 韓国からの誘致

四国運輸局や香川県観光協会等と協力し、「2016 VISIT JAPAN 韓国市場商談会inソウル」などへ参加するとともに、これまで以上に、韓国からの観光客や教育旅行、インセンティブ旅行の誘致を図る。

オ. 台湾からの誘致

四国運輸局や日本観光振興協会四国支部等と協力し、「台北国際旅行博覧会（ITF2016）」に参加し、博覧会への参加者や旅行AGT等に対する観光PRを行うほか、教育旅行の誘致策として、各種商談会への出展や旅行AGTへの訪問セールスなどを行う。

カ. その他の国からの誘致

県が重点的に推進する東南アジア（シンガポール、タイ、マレーシア等）での現地プロモーションや旅行AGTへのPR、送客依頼等に努めるほか、他団体が実施する事業や旅行AGTのツアーリクエスト等にもきめ細かく対応し、アテンドやサポート等を行う。

(3) 観光客受入対策事業

① 外国人受入態勢整備事業 新規

外国人が住みやすく、訪れやすい受入態勢整備は喫緊の課題で、定住化促進や訪日客誘致に繋がるなど地方創生の観点でも極めて重要な施策である。

徳島県等が進める「訪日外国人 2000 万人時代に向けた取組施策」について、当協会としても可能な限り連携・協力する一方、以下の3点を自主的に推進していくこととしたい。

なお、後段の2点は国内客の受入態勢整備にも繋がる事業である。

- ・ 公的施設や宿泊観光施設等での多言語標記の促進
- ・ 多言語標記印刷物等を活用した情報提供サービスの深度化
- ・ 阿波とくしま・おもてなし観光案内拠点ネットワーク整備とサービス向上運動の実施

② 四国DCフォローアップ事業 新規

県から受託している「四国DCに向けた受入環境充実事業や徳島旅行促進事業」、協会自体が行う「四国DC関連施策」については、市町村の観光部門や観光団体・事業者等の協力を得ながら、全般的な観光客の誘致成果や反応等を検証し、以降の観光客受入対策に反映していくこととする。

③ 県内における二次交通利用促進事業 一部新規

受入対策の中で特に重視されている二次交通機関対策については、既存交通機関（鉄道、路線バスや周遊観光バス、タクシーやレンタカー、レンタサイクル）の運転（行）情報や運賃料金、割引きっぷなどの提供サービスを広く案内するほか、組み合わせ商品の開発（レール&バスやレール&タクシー等）、周遊バスや周遊タクシープランの新設などの施策を講じることとする。

④ 観光ボランティア団体等に対する支援・育成事業

県内の観光ボランティアガイド団体や四国観光達人、体験型観光事業者等を対象とした交流会やレベルアップ研修会（知識、おもてなしに加え、話術向上）を実施するとともに、新規発足の団体に対する支援等を行う。

⑤ 地域イベントの開発と地域支援事業 一部新規

県内各地域で、積極的に観光客誘致に取り組んでいる市町村や観光関係団体に対する可能な限りの支援と協力を行い、地域振興を更に促進する。

今年度は、四国DC関連もあり、地域イベントのさらなる充実を目的としてリニューアル、地域における新たな話題づくり(にし阿波観光圏の妖怪回廊や案山子回廊づくり等)を推進することとしたい。

⑥ 観光案内問い合わせ活用事業 一部新規

当協会に対する観光客やマスコミ等からの問い合わせは、観光客の動向やニーズ等が把握できる貴重なマーケティングデータであることから、今後の観光振興施策に反映するとともに、お問い合わせの多かった内容については、阿波ナビを活用した「先取り情報の提供」に努める。

⑦ 当協会所有「阿波おどり 花れん浴衣」の衣装レンタル事業 新規

当協会では、コンベンション開催時における「華やかな演出」を行うほか、「浴衣で城下町散策」を称揚するため、昨年度制作した「阿波おどり衣装」のレンタル事業を開始することとした。

(4) その他の事業

① 自主財源の確保

自主事業展開に不可欠な自主財源を確保するため、賛助会員収入や有料広告収入増（ホームページ阿波ナビや協会作成観光パンフレット等への広告掲載料）に加え、とくしま花へんろカレンダーの販売収益拡大等に努める。

② 観光事業功労者・観光施設優良従業員の表彰等

観光振興面で特に功績のあった観光事業者や長期勤続の観光施設優良従業員等に対する表彰を行うとともに、過去の被表彰者の中から（公社）日本観光振興協会四国支部表彰に該当する適格者を推薦する。

2 県からの受託事業

以下の受託事業を着実に推進する一方、本県の「地方創生“拳県一致”協議会」を核として推進中の【VS 東京「とくしま回帰」総合戦略】のうち、「戦略的な観光誘客の推進」等についても、県関係部局との連携を密にし、具現化に向けて最大限の取組を行うこととする。

(1) 四国DCに向けた受入環境充実事業 新規

平成 29 年第 1 四半期に四国で展開される「JRデスティネーションキャンペーン（JRDC）」は、国内外客の誘致が期待できる大型観光キャンペーンであることから、所要となる施策の中でも特に重要視されている二次交通機関の整備やその効果検証等を行うなど、受入環境の充実策を講じる。

(2) 四国DCに向けた徳島旅行促進事業 新規

本年5月に開催されるJRDCの重点宣伝販売促進会議の場を活用し、旅行会社に対する本県向け旅行商品の造成と送客を働きかけるとともに、団体旅行等の需要喚起を目的とした旅行会社への助成等を行う。

(3) とくしまロケーション・ブランド発信事業

熱意ある県民・企業・団体を活用した徳島オリジナルの「温かいおもてなしの支援体制」を構築し、撮影関係者に対する有用な情報提供や徳島ロケの印象付けを行うことでより効果的な情報発信に繋げる。

(4) 魅力あふれる「阿波とくしま」観光誘客促進事業

観光誘客を促進するため、県内で開催されるイベントに対し、有形・無形の支援を行う。

(5) 体験型観光ステップアップ事業 一部新規

体験型観光の先進地として、さらなる飛躍を図るため、県下全域での受入体制を構築するなど、体験型観光のブランド化を行う。

また、体験型観光を推進する全国組織の総会が徳島県で開催されることから、全国から参集する方々との情報交換を通して、体験型観光に従事する人材のスキルアップを図る。

(6) 阿波おどり「とくしま連」運営事業

徳島県のイメージアップを図るとともに、郷土の伝統芸能である「阿波おどり」の継承やこれによる観光客の誘致促進を図るため、阿波おどり「とくしま連」の運営に係る業務を行う。

(7) 観光情報提供システム整備事業

観光客誘致の促進、受入態勢の充実を図るため、観光情報提供サイト「阿波ナビ」の適切な維持管理を行う。

(8) 外国人観光客倍増推進事業（うち教育旅行促進）

海外の教育機関等への訪問によるプロモーションや現地教育関係者の県内視察等を通じ、本県の魅力や受入態勢をPRし、教育旅行誘致を促進する。

(9) 「スポーツ王国」立国事業

県内スポーツ施設及びスポーツ合宿施設等と連携をとり、県外の企業・大学等のスポーツ合宿誘致や交流試合の実施による各施設の有効利用や交流人口の増加を促進し、徳島へのリピーター拡大を図る。

(10) もっともっと知りたいとくしま事業

「マチ★アソビ」や「とくしまマラソン」などに来県する県外客を対象に観光案内業務を行い、県内各地への誘客やリピーターの増加を目指すとともに、県外において本県のイベントや観光のPRを実施する。

3 収益事業

(1) 観光宣伝・情報発信事業

① 徳島県観光ガイドマップ作成事業

観光情報を広く発信するため、県内全域の地図や主な観光施設等を写真などで紹介した「徳島県観光マップリーフレット」を作成し、県内外で実施する観光キャンペーンや観光施設及び観光案内所等において配布する。

② とくしま花へんろカレンダー作成事業

花による町づくりとフラワーリズムを推進するため、「2017とくしま花へんろカレンダー」を作成・配布するとともに販売する。

(2) 旅行業推進事業

① 「旅行業」の本格的始動に向けて

当協会の「国内旅行業」については、昨年後半に基盤整備がほぼ整った。本年は、旅行業のさらなるノウハウを取得するとともに、地元を熟知した協会ならではの旅行商品造成と販売体制(直販、委託販売)を確立し、本格的に始動させることとしたい。

商品造成に関しては、地域貢献を念頭に置きながら、本県固有の魅力や素晴らしさを組み込むとともに、観光ガイド(添乗ガイド、現地ガイド)を充実させ、お客様と地域住民が双方向で交流できるものとする。

また、販売体制に関しては、訴求力のある商品を対象に大手旅行会社やネット系旅行会社との受委託販売を試行する。

② 海外個人旅行(FIT)向け着地型旅行推進事業

大きな増加が見込まれる東アジア、東南アジア圏からの訪日個人旅行客に対し、近隣県の観光資源も活かした広域周遊型の利便性の高い旅行商品を開発し、「いつでも・誰でも」利用できる旅行クーポン等の販売体制を整え、訪日観光誘客を継続推進する。

コンベンション振興事業

1 コンベンション振興事業

(1) 情報発信事業

MICE事業の推進を目的とした日本で唯一の総合コンベンションイベントである「国際ミーティングエキスポ」のほか、東北地区および中国四国地区のコンベンション推進団体が開催する「東北地区&中国四国地区合同コンベンション誘致懇談会」等へ出展し、本県へのMICE振興に向けたPRと誘致を行う。

① コンベンショントレードショーへの参加

ア. 第25回国際ミーティングエキスポへの参加

四国地区CB協議会（高松観光コンベンション・ビューロー、松山観光コンベンション協会、高知県観光コンベンション協会）と協同ブースを出展し、MICE関連団体等に対するPRに努める。

イ. 東北地区&中国四国地区合同コンベンション誘致懇談会への参加

東北や中四国地区のコンベンション推進団体と協力し、懇談会へ参加し、本県への開催に関わる主催団体に対するPRと誘致に努める。

② 季刊誌の作成及びホームページでの情報発信事業

当協会発行の観光情報誌「うずうず」に、各種コンベンション情報を掲載するとともに、コンベンション事業部のホームページを運営し、コンベンション情報を発信するなどPRに努める。

(2) 誘致対策事業

① 「とくしまコンベンション誘致推進協議会」事業

コンベンション誘致による地域経済効果が極めて高いことから、設置している産官学民総連携の「とくしまコンベンション誘致推進協議会」の加盟団体等の支援と協力を得ながら、コンベンション誘致に向けて、精力的に取り組んでいくこととする。

② 全国コンベンション誘致促進事業

全国規模のMICE誘致促進を図るため、主催者側で開催の決定権を有する責任者など（キーパーソン）がコンベンション施設等の視察を希望する場合は、積極的な受入支援を行う。

(3) 受入支援事業

① コンベンション支援助成金の交付事業

対象要件を満たすコンベンション主催者に対し開催費を助成するほか、郷土芸能等のアトラクション助成やシャトルバス運行等の助成を行う。

さらに、延べ 1000 泊以上のコンベンションについては県立施設の使用料相当額を助成する。

② 主要観光施設の紹介及び割引制度の提供事業

コンベンション参加者に対して、県内観光地の優待割引制度や飲食店等を紹介した資料を提供し、県内での滞在性や周遊性を高める。

③ 歓迎看板の設置事業 一部新規

参加者が 500 名以上の全国規模コンベンション開催時は、徳島阿波おどり空港及びJR徳島駅に歓迎看板を設置する。また、大規模なコンベンション開催時には街を挙げての歓迎ムードを高めるため、ホテル・飲食店等の入り口に歓迎ポスターを掲示する。

④ 大規模コンベンション開催情報発信事業

県内開催のコンベンション情報を、メディアや観光、宿泊、飲食、土産などの関連団体に幅広く広報し、県外客のスムーズな受け入れを行う。

⑤ コングレスバッグの提供事業

コンベンション開催時に、当協会作成のコンGRESバッグに大会名等を記載し、安価に提供するなど、コンベンション参加者の利便性を高める。

⑥ 戦略的MICE誘致事業

昨年作成した主催者および参加者向けの各種ツール（サポートブック、観光モデルプラン、食と土産の冊子、チームビルディング等）のブラッシュアップを図るとともに、本県への誘客に向けた各種プランを拡充する。

⑦ MICEおもてなし事業 新規

当協会の観光振興部門と協力しながら、大規模コンベンション開催時に観光PRブースを設け案内を行なうことにより、本県の観光振興に努める。

また、観光ボランティア等が行なうツアーを紹介することにより、参加者の満足度を高める。

⑧ コンベンションの魅力度向上事業 新規

アスティとくしまでのコンベンション開催時に「彩＝華やかな演出」を添えるため、コンベンション主催者に対する「阿波おどりの衣装(当協会所有)レンタル事業」を事業企画部門と連携して行う。

(4) 各種情報の収集と提供事業

国内・国際コンベンションの誘致を促進するため、観光庁やJNTO（日本政府観光局）、JCCB（日本コングレス・コンベンションビューロー）等のノウハウや諸情報を活用するとともに、県や市町村、大学等の関係機関と連携して、開催計画などの情報収集と意向調査に努める。

また、本県の観光や食、伝統芸能など魅力あるアフターコンベンション情報を主催者に対し的確に発信するとともに、主催者側発行のパンフレット類への掲載依頼をすることで、県内での滞在日数や周遊箇所数の拡大に努める。

施設等管理運営事業

1. 徳島県立産業観光交流センター（アスティとくしま）の管理運営事業

(1) 指定管理業務の充実・強化策

平成28年度から5年間、（一財）徳島県観光協会が継続して当センターの管理運営を担うこととなり、今後もこれまでと同様に「安全・安心・快適」を基本方針として、利用者の声を常に伺いながら、利便性と利用者サービスの向上に取り組むとともに、業務能率の向上や効率化を推進する。

また、観光やコンベンション振興部門を含めた協会の総力をあげ、アスティとくしまの使用料収入増と稼働率向上を図る。

同時に、利用促進を目的とした事業等を積極的に開催し、徳島の魅力を発信する拠点として、にぎわいづくりや地域の活性化を図る。

(2) 館内設備の維持更新等

施設設備については、定期的な点検により故障や事故の未然防止に努める。

設備の維持・修繕については、経年劣化状況に加え、安全性とコストの両面から優先度を決定し、県との事前協議を綿密に行いながら効率的かつ効果的に実施することとする。

また、主催者及び来場者アンケートによるご要望を取り入れ、利用者サービスの向上施策に繋がるものについては積極的に導入を進める。

(3) 利用促進を目的とした事業展開

① 大会・会議等の誘致事業

当協会コンベンション振興部門と連携し、「国際ミーティングエキスポ」、「コンベンション誘致懇談会」等に参加し、当施設の規模や開催地域に当てはまる可能性が高い大会や会議、学会等の様々な催しの誘致に努める。

また、コンベンション助成制度や閑散期減免制度を活用し、経済効果の高い学会や大会等の誘致活動を行い、地域の発展と観光等の振興に寄与する。

② 地元企業及び学校関係の会合、芸術・文化イベントの誘致

県内企業の商談会・商品説明会、学校・各種団体の会合、芸術・文化イベントの開催等、多目的ホール・会議室等の利用促進を図るため、積極的な営業活動を行う。

③ おどる宝島！とくしま博覧会「秋の阿波おどり」

昨年は、平成20年から継続開催の「おどる宝島！とくしま博覧会」のメインイベントとして「秋の阿波おどり“阿波おどり大絵巻”」を徳島県と共同開催した。従来の有名連による阿波おどり乱舞と観客の踊り体験の他、「徳島県阿波おどり保存協会」や「淡路島阿波おどり」の上演、さらに、全国の踊り連を招いての「全国阿波おどりコンテスト」等を開催し、過去最高の来場者があった。

今年度も、阿波おどりに加え、会場内の県内市町村の特産品販売ブースやB級グルメブース等も内容を充実させ、これらをを全国に情報発信して、交流人口の拡大やにぎわいの創出による地域の活性化に繋げることとする。

また、県外旅行AGTへの積極的な誘客活動や誘客キャンペーンを行う。

④ アスティおどりひろば(県指定事業) 一部新規

8月12日からの4日間、阿波おどり期間中の昼間対策として、県内有名連による阿波おどりの上演と阿波おどり体験の場として提供するとともに、「阿波おどり 花れん浴衣」の衣装レンタル事業を実施する。

今後は会場内の特産品コーナーをさらに充実させ、イベントを紹介するリーフレットを早期に作成・配布し旅行会社等への積極的なPR活動を行い、本県阿波おどりの魅力度向上と県内外客の誘致に努める。

⑤ 阿波おどり練習場所の提供と練習風景の観覧

天候に左右されない多目的ホールの空き日を、「はな・はるフェスタ」及び「夏本番の阿波踊り」の練習場所として継続提供し、郷土芸能の発展と普及をサポートするとともに、練習風景の観覧情報をマスコミや市内宿泊施設等に発信し、にぎわいの創出やおもてなしの向上に努める。

⑥ ふれあい広場等を活用した観光情報発信 一部新規

ふれあい広場は、県や市町村等と連携し、各地域のタイムリーな話題や観光情報を提供する場としているが、引き続き各地域のイベント開催情報や旬の観光情報発信の場として活用し、写真展やパネル展等の開催により県内各地のPR効果を高める。

また、県内各地の花の名所を撮影した「とくしま花のある風景フォトコンテスト」を開催し、応募者の作品を「とくしま花のある風景写真パネル展」として展示する。

特に、今年度は、やや殺風景なアスティとくしま館内の壁面等を活用し、県内各地の花の名所等の美しい風景写真(A4版額入り)を掲出するなど「彩空間の演出」に努めることとする。

⑦ 阿波とくしま観光かるた大会

本県の将来を担う子どもたちに、郷土の伝統や文化、自然などのすばらしさを楽しく学び、郷土愛を育てて頂く目的で開催している当大会については、毎回出場者が増えていることから、今年度も「第7回阿波とくしま観光かるた大会」として継続開催する。

⑧ 明日亭徳島落語会

地域の方々に親しまれる施設を目指し実施している落語会を、その他の伝統芸能等も取り入れながら「第13回明日亭徳島落語会」として継続開催し、にぎわいの創出や伝統文化の振興を図る。

⑨ 徳島ヴォルティス アウェイ戦パブリックビューイング

昨シーズンJ2に降格した徳島ヴォルティスの再度J1への昇格を願い、アウェイ戦を多目的ホールの空き日を利用してパブリックビューイングとして開催し、県民と一体となって応援する。

(多目的ホールの利用状況等によって、開催不可になる場合もある。)

⑩ アスティとくしまと地域コミュニティとの

地域連携防災イベントの開催 新規

南海トラフ地震の発生が危惧される中、平成26年12月に結成した「アスティとくしま自主防災会」の取り組みの一環として、周辺の自治会や自主防災会との連携・共助による防災活動の取り組みを推進する必要がある。

このため、地域住民の意識改革や地域コミュニティの活性化及び地域の災害対応能力の維持向上を図るため、徳島市地域コミュニティ連絡協議会等と連携し、集客力を持ち、かつ実効性のある地域活性化イベントとして実施する。

⑪ 環境対応施策

今年度も、緑のカーテンの設置をはじめ、クールビズやウォームビズ対応に引き続き取り組むとともに、照明器具等を適宜照度効率の高いLED球に交換する等、経営状況を勘案しながら節電対策を図る。

⑫ その他

予約管理システムやホームページ等は、更なる利用者サービスの向上を図るため適宜改良し、より利便性の高い施設づくりに努める。

2. 徳島県立男女共同参画交流センター（ときわプラザ）の管理運営事業

当センターも、平成28年度から5年間、当協会が継続して管理運営を担うこととなり、「安全・安心・快適」かつ「利用しやすい」施設づくりを第一義とし、「人・物・情報」の交流拠点を目指し、利用者サービスの向上に取り組む。

また、各関係者等との連携を密にしながら、アスティとくしまを含めた一体的な施設運営や営業・広報活動を行い、来館者数の増加と、ときわホールや研修室等の利用率向上に努める。

なお、今年度は、来館する子ども達を対象とした「昔遊び体験の場づくり」について検討を進める。

3. 徳島県立渦の道・大鳴門橋架橋記念館（エディ）の管理運営事業

昨年度より第4期目の指定管理者として、施設の管理運営業務を（株）ネオビエントと共同で行っている県立施設「渦の道と大鳴門橋架橋記念館エディ」の経営状態は極めて厳しい状況下にある。

昨年度は、大鳴門橋開通30周年やエディ開館30周年に加え、渦の道開館15周年を好機として迎え、「周年記念イベントや多彩な自主事業展開による両施設の魅力度向上策」と「お客様サービス向上施策」を行うとともに、「情報発信の強化策」や「旅行AGTに対する誘致活動策」などを積極的に講じたものの、その利用状況は低迷し、徹底したコスト削減も追いつかず初の赤字収支を余儀なくされている。

今年度は、指定管理者として可能な限りの両施設魅力度向上策を講ずるなど、ありとあらゆる利用促進策を徹底的に実施することにより、収支均衡目標の必達に努めることとする。

具体的には、「渦の道」のエントランスを活用した県内観光団体等のPRを行う場所提供や遊歩道を活用した回廊化計画に加え、ユニークなイベントの開催や様々な写真展等による「観光情報発信イベント」を開催し、「架橋記念館エディ」では、橋をテーマとした展示に工夫を凝らすほか、お子様を主対象としたむかし遊び体験コーナーなどによる「ファミリー向けイベント」等を開催する。

更に、「渦の道」及び「エディ」両施設を見学できるシステム等を積極的に検討し、両施設の利用促進にも取り組む。